

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 | 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	札幌市立向陵中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	36
学級数	7	6	6		19	
児童数	250	215	240		705	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人の学力を確実に定着させ、さらに伸ばす学習活動の在り方

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年必修数学(確実に基礎基本を定着させたい学年,教科であるため)
3年選択数学(生徒一人一人の希望や実態に応じた補充的・発展的学習を行うため)

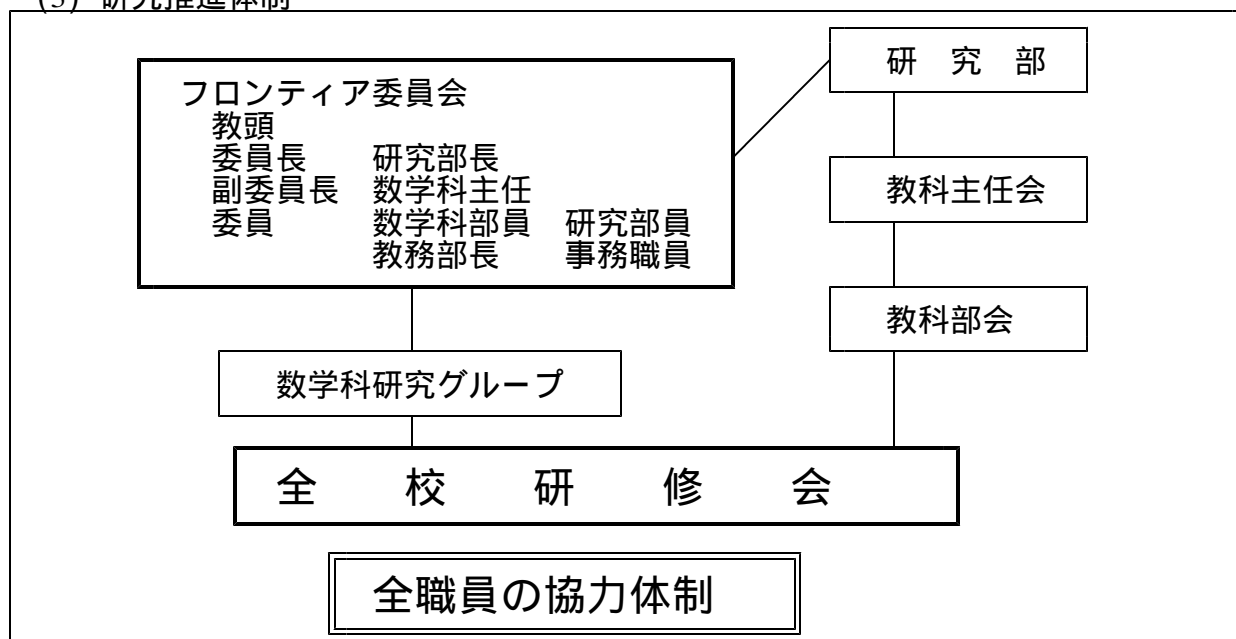
(2) 年次計画

平成14年度
 テーマ
 TTによる個別指導の充実と理解や習熟の程度に応じた指導の在り方
 仮説
 TTを行うことにより,より細かく個に応じた指導ができるようになるとともに,一斉指導にとらわれない効果的な学習形態が可能になる。以上のことを踏まえて,個に応じた分かる授業を展開することで生徒の学習意欲や学力は向上する。
 研究内容・方法
 ・1年生の必修数学における,TTによる個別指導の充実
 ・習熟度別コースを意識した3つのタイプの学習グループの設定

平成15年度
 テーマ
 個に応じた指導の充実と理解や習熟に応じた教材開発
 研究の見通し
 生徒の希望や習熟の状況に応じて学習コースを設定し,きめ細かな指導を心がけることで,生徒の意欲が向上し,確かな学力の獲得ができるようになる。
 研究内容・方法
 ・家庭学習などでも活用できるようなシステムの構築
 ・生徒と教科担任間の相談機能と自己評価力の育成

平成16年度
 テーマ
 培う学力の補充・発展を見すえた選択教科の在り方の工夫
 研究の見通し
 選択数学で生徒の希望や実態に応じて,発展的な学習や補充的な学習が一層充実するようコースを開設し,生徒一人一人に対して,より一層きめ細かな指導の充実を図ることにより,生徒の学習意欲や確かな学力を獲得できるようになる。
 研究内容・方法
 ・生徒選択を生かした選択教科の在り方の研究
 ・補充的・発展的な学習における個に応じた指導

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) ホームページの開設

家庭学習などでも活用できるようなシステムとして、インターネットを利用した家庭学習支援用のホームページ（以下HP）を開設した。このHPは1年生を対象とし、3章「方程式」の家庭学習を支援する目的で作成した。生徒のアクセス回数は10月の開設からやく2か月で900回近くに達し、生徒の評判も上々であった。生徒からは、「声が出たり、図があつたりして、分かり易かった」、「分からないところが分かった」、「復習やテスト勉強に使えて良かった」、「いろいろな問題に取り組めて良かった」といった感想が寄せられた。

生徒の利用の目的を調べてみると、授業の復習とテスト勉強のための利用がそれぞれ36%を占め、残りは授業の予習やテスト後の復習であった。いろいろな目的でHPが活用された様子を知ることができ、HPの当初の目的はある程度達成できたと考える。

(2) コース選択の助言と活動の達成感

成果として、学習形態を「個人学習」「グループ学習」「教師と一緒に学習」と、昨年と同じグループ分けを行ったが、昨年はグループにやや偏りがあり、教師側との思惑にずれがあったので、この点でワークシートの改善を行った。主に、確認テストを行い反省を記入する際、学習方法についての反省や次回の学習での見通しをもたせ、よりよい学習を選択できるようにアドバイスを行った。

結果として、「個人学習12名」「グループ学習14名」「教師と一緒に学習9名」程度で推移し、ほぼ教師の思惑ともずれがなくなっていく。それぞれの生徒が取組に達成感をもち、学習する意欲が高まっている裏付けにもなると考える。

(3) 保護者への啓発と開かれた学校づくり

本事業実施2年目を迎えて、保護者集会、学年便り、学校便りなどを使って啓発活動も行ってきたが、保護者の思いについても成果と課題を図る意味でも重要である。

今回実施したアンケートのいくつかを抜粋した。

本校がフロンティアスクールに指定されていることを知っていましたか。	はい	35.3%
	いいえ	64.7%
TTの実施は知っていましたか。	はい	76.5%
	いいえ	23.5%
HPの開設を知っていましたか。	はい	70.5%
	いいえ	29.5%
習熟度別学習に対するご意見（今年度の取組を含む）	賛成	52.9%
	条件付の賛成	23.5%

少人数学習に対するご意見	反対	23.5%
	分からない	0%
	賛成	58.8%
	条件付の賛成	5.8%
	反対	11.7%
	分からない	17.6%

条件付の賛成では、人間関係についての不安を指摘しているものが多いことを付け加えておく。

実際の取組については理解が得られていたと思われる。保護者集会への出席が40%前後であることを考えても直接教師が口頭説明した以外にも、生徒との会話、保護者同士の会話、学年学校便りなどで理解されているようである。今後も取組を細かく知らせる機会があった方がよいと考える。

習熟度別学習や少人数学習についての意見では、趣旨を理解いただき多くの賛成を得られる環境になっているものと判断できるが、保護者にも経験が少なく、一定の不安を示す方も20%ほどいることに注意したい。

実施するに当たって十分な配慮と生徒が生き生きと取り組む姿があって、保護者からの評価も得られると考える。

2. 今後の課題

(1) 評価について

学力の向上に向けて「意欲の向上」を目的の柱として主に今年度は学習形態と家庭学習、教科担任との相談機能を中心に研究したが、向上した意欲をどう評価に生かしていくかとの課題が残った。

課題の観点としては

- ・評価規準の見直し

授業の目標などで、「計算が正しくできる」の規準では、意欲の向上を見取る文言とは言えない。そこで「正しく計算しようとする」に変えることでより意欲の向上をとらえようとする意識になると考える。

- ・ワークシートの改善

生徒の取組を残し、生徒とともに振り返るなど学習の足跡を残すことは大変意義がある。また、評価の面でも、先の目標の検証に有効な資料として活用できると考える。当然、授業の目的に合わせたワークシートにする必要がある。

(2) HPの取組から

大変有効な取組であり、生徒からの継続した取組のリクエストも多く一定の成果が上がっているが、いくつかの課題もあがってきている。

- ・家庭に於いてHPを見られる環境にない生徒への対応

20%程度の生徒が、残念ながら家庭に於いてHPを見られる環境にはないことが分かった。プリントアウトして自由に持ち帰ることができるように対応したが十分ではなかった。掲示板への書き込みなど教科担任との相談機能も想定していたが、当然、家庭に於いてHPを見られる環境にない生徒にはできないことである。

- ・生徒からの質問への回答

今回の取組は、個人のホームページとして開設した。1年生の教科担任が3名だったこともあり、対応が遅れがちになった。回答の方法は、ホームページ上に載せることと個別に休み時間などにその個人に対して行った。

(3) 学習形態の改善

2年間、1つのクラスを3つのグループに分けて2名の教師で指導する方法を研究してきた。適切な選択や達成感をもてる取組での成果を上げたが、同時に課題も明らかになってきている。

- ・2人で3グループ

3つのグループにしたことで、グループ数が教師の人数より多くなり、教師の目が届かないグループが必然的にでてしまうことは、きめ細かく指導することが困難にする。

しかし、2つのグループでは、生徒の選択の幅が少なく有効な学習方法を選択する意義にかける。

- ・一斉授業と習熟度別学習の関係

グループ間の移動が自由にできるように自分で学習を振り返りながら、選択の機会をもったために、一斉授業と習熟度別学習を交互に行ってきた。本来ならば、一定期間グループによって活動する方が、より確実に学習効率が上がる

と思われる。

しかし、生徒や保護者の様々な思惑もあり、やむを得ない面もある。もっと、一斉授業での習熟度別学習を経験したよさを生かせる工夫が必要だった。

・少人数学習の試行

来年度は、必修授業でのもう一つの選択肢として2学級を3人で指導する少人数学習を試行しようと考えている。

学力等把握のための学校としての取組

定期テストにおける基礎・基本の定着の確認

学力テスト（観点別到達度学力検査）を実施し、学力の定着をさらに把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・公開授業の開催

平成15年10月7日（火） 札幌市立向陵中学校

研究主題 「学ぶ側に立つ教育の実践」

副主題 「生きる力」をはぐくむ基礎・基本の研究

実践課題 ～生徒一人一人の学力を確実に定着させ、さらに伸ばす学習課題は、どうあればよいか～

対象 中央地区内小中学校教員，札幌市教育委員会指導主事，市内フロンティアスクール教員

・研究成果のまとめと冊子の作成

札幌市教育委員会の協力を得て、同じく学力向上フロンティアスクールでもある札幌市立山鼻南小学校，真栄小と小冊子を作成し，全市小・中学校に配布予定である。

・研究の成果をホームページ上に掲載（予定）

・学力向上フロンティアスクール別海町立上西春別中学校と交流

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級

7～9学級 10～12学級

13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科

外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無